

後援会だより 親子で綴る法政の4年間

大学祭を通して



経営学部 山田みおりの 私の法政4年間は振り返ると、自主法政都市ヶ谷地区(以下、大学祭)実行委員会での活動が多くを占めていました。

実行委員として活動しても、功績として残るものはありません。準備に約1年間を費やしても、本番の大学祭はたった

の4日で終わります。しかも裏方としての活動が主なため、活動内容がかなり地味です。それでもなぜ続けたのか。

大学祭は、一人で開催できるものではありません。資金援助を募り、場所や備品をお借りして、外部の方をお招きし、多くのサークルや団体に参加していただく。さらに、来場してくださる人たちがいて、初めて開催できます。そうして多くの方々に協力いただいた結果が一つになる4日間が、とても好きだったからだと思います。

大学祭は、2017年度で70回を迎えました。毎年さまざまな方に協力いただいたのは、過去69回分を完遂してきた諸



2015年度の自主法政都市ヶ谷地区にて

卒業に寄せて



卒業おめでとう。4年間の大学生活はとも充実している様子で、いづれしく見守っています。東京六大学野球の応援で明治神宮野球場に行ったり、東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)の応援で箱根や小田原に行ったりしたことも楽しい思い出です。

大学実行委員会の活動に積極的に取り組みながらゼミ活動にも力を注いだこと、たくさんの仲間にも恵まれ、大きな目標に向かって頑張りぬけたこと、成長できたと思います。この4年間で身に付けたことを生かし、社会人になっても頑張ってください。

大学で教えられたこと



経営学部 渡辺大貴 入学当時は、高校までとは違いう、何もかもが自由な時間をうれしく感じていました。しかし次第に夢や目標、勉強に対する意欲が乏しくなり、どんどんと大学から足が遠のきました。気付けばあっという間に1年が過ぎ、多くの単位を落とすことになりました。学部職員の方から「このままでは、卒業するために7年の時間がかかる」と心配されたほどです。そんな私の大学生活が変わったきっかけは、3年次から参加した二階堂行宣准教授ゼミです。かつて、私が育った地域が、新幹線の開通により大きく変化を遂げたことから、鉄道経営に興味を引かれていました。鉄道事業の経営史に詳しい二階堂先生や仲間と意見を交すうちに、初めて大学生活が楽しく感じられるようになりました。大学生活の前半を無駄に過ごした私に、すべて、勉強も遊びも就職活動も、常に全力で取り組むゼミの仲間存在はいづれも刺激的でした。仲間の仲間のおかげで、自分自身の学生生活や時間の使い方を直すことができました。

さらに、「地元のために働きたい」という夢を、



二階堂行宣ゼミの新生歓迎会にて

法政で学べてよかった



息子と大学生活を通じて、私は後援会で、よき先生、仲間、教職員の方や、後援会関係者の皆さまに出会えました。楽しいことや苦しいことをいろいろ経験し、多くを学びました。「息子が法政で学べて本当よかった」と、心から感謝しています。卒業生の皆さま一人ひとりが、法政大学で経験したそれぞれの「よかった」を財産に、これから社会で活躍されること、多くの「よかった」が大きなパワーになり、法政がさらに発展することを祈念して、はなむけの言葉とします。

かけがえのない時間



キャリアデザイン学部 小林実央 4年間の大学生活の中で、一番夢中になって取り組んだものは「軽音楽サークル」の活動です。

高校1年生の頃からバンド活動をしていた、そのときにお世話になった先輩方が所属していたことがきっかけで、サークルに入りました。

はじめは、高校時代の部活動とサークル活動のギャップに戸惑い、仲の良い友人たちが次々と辞めてしまおうかと悩んだ時期から自分も辞めてしまおうかと悩んだ時期

もありました。しかし、先輩や同期の仲間とバンド演奏をしていくうちに、サークル活動が楽しいと思えるようになっていきました。

そんなサークル活動の一番の思い出は、3年次に「イントロステージ」という大きな舞台でライブ演奏をしたことです。サークルに入る前に、先輩方が演奏する姿をみて憧れたステージに、自分も立つことができました。大学で出会ったメンバーとともに練習を重ねた結果、ずつと憧れていた舞台上で演奏をした瞬間は、忘れることができません。

4年間のサークル活動を通じて、挑戦する姿勢や諦めずに続ける力を得ることができ、同じ目標に向けて頑張ることの



イントロステージでのライブ演奏

「和」



デザイン工学部 遠藤 匠 私の法政での4年間の生活を一文字で表すと「和」であると思います。

経験、人脈、成長とれをとつても私の人生の中で最も充実した期間であり、その中には常に人と人との「和」があったと感じています。

4年前の4月、仙台で育った私は東京での生活にこれ以上ない期待と憧れを持って上京しました。慣れない一人暮らしで不安もありましたが、毎日が新しいこと、楽しいことの連続で、いつの間にかそんな不安がなくなって無くなっていま

した。

私は建築学を学び、建築構造解析のゼミに所属しました。2011年に発生した東日本大震災の経験から地震と建物の関係を勉強したいという気持ちで強く、難し内容に挑戦しました。その結果、卒業論文では研究パートナーと共に建築研究賞を受賞することができました。

学業以外のことでは、いろいろな種類のアルバイトを経験しました。どの経験も自身の成長に大きく影響を与えてくれました。また、所属したサークルでは旅行長として合宿の幹事を務め、幹部としてサークルを盛り上げました。

私が法政大学の強みを最も強く感じたのは、就職活動のときでした。キャリアセンターでは、面接対応などを何度も熱

心に指導していただきました。また、希望する企業ではOBの方に応援をいただき、早期に内定をいただくことができました。

最後になりますが、この大学生活を送らせてくれた両親、一緒に過ごした仲間たちへ感謝の気持ちを込めてお伝えしたいと思います。

4月から、社会人は社会人として「和」を大切にしていきたいです。



サークルの仲間たちとの旅行

卒業という人生の岐路にむけて



卒業おめでとう。あなたにとつての大学生活は、実り多きものでしたね。

思い起こせば、桜のほろろぶときに中学の門をくぐったことが昨日のようです。当時のあなたは、人の前に出ることがとても苦手でしたね。それから10年たった今、自分で判断し、進んで苦難に立ち向かっていくあなたの姿を見るとき、少し思えます。これも法政の『自由と進歩』の学風の下で、学ばせていただいたおかげです。

これから10年前に出会った桜のように美しく、潔い心を持って人生を歩んでほしいと願っています。私の娘に生まれてきてくれた縁に、心からの感謝と卒業を祝って、おめでとう!!

卒業によせて



卒業おめでとう。親子二代で法政大学、しかも建築学科で学ばれたことを、大変うれしく、また、誇りに思います。

設計の課題制作にアルバイト、サークル活動と、フル活動で充実した4年間でした。一生付き合っていく友人がたたくまでできましたか。

これからは、仕事を通して多くの方々と関わりながら、いろいろな事を学んでいきます。自分に責任を持ち、たくましく生きる力を身に付け、いつまでも「母校、法政」に誇りを持って、社会に貢献できる人材に成長してください。

## たくさんの挑戦と経験



人間環境学部  
本名 梨琳

大学4年間を振り返ると、本当にあっという間でしたが、とても充実していた日々だったと感じています。大学生活では、自分のやりたいことや好きなことにたくさん挑戦できました。

中でも2年次の春休みに行った、1ヵ月間の海外ボランティア活動の経験は、自分の人生にとって大きなものだったと思います。自分から望んで参加したボランティアなのに、言葉が通じずに苦労したことも

たくさんありました。けれど、好きなものに囲まれてやりたいことができたのは、とても幸せな経験でした。一人で未知な場所でも、新しいことに挑戦することの楽しさ、難しさ、大変さを改めて実感できました。

2年次から所属した研究会でも、多くのことを学ぶことができました。基礎的なことから、一つのテーマについて学び追求していく楽しさまで、さまざまなことを学びました。

長いようであっという間だった大学生活。多くの人と出会い、いろいろなことを経験しました。大きな期待と少しの不安を持って上京した4年前に想像した生活より、はるかに楽しく、充実した時間

## 憧れのキャンパス生活



本名 浩史

「東京の大学に行きたい」という思いから実現した、法政大学への入学。憧れのキャンパス生活は、一人暮らし、充実した講義、サークル活動、海外ボランティアなど、貴重な体験ができました。東京にいなければ経験できなかったこと、これからの人生にも、かけがえのない時間になったこととしてしよう。

卒業後は、故郷に戻ってくる決断をしてくれました。地域の人に愛される社会人になってください。いまだに子離れができない両親だけど、これからはもう少し！

## はじまり



現代福祉学部  
坂元 将也

「ここが私の大学生活の場なんだ！」

そんな「はじまり」を予感しながら、法政大学へ入学してから早4年、いつの間にか卒業の年になってしまいました。大学に入った当初は、やりたいことが見つからず、気がめいる毎日を過ごしていました。しかし、1年次に受講した「地域計画論」の授業をきっかけに、まちづくりについて関心を寄せるようになり

ました。それからの3年間は、まちづくりの学

問に力を入れて取り組みました。「地域計画論」を教えてくださった保井美樹先生のゼミに2年次から所属し、ゼミ活動と個人研究にのぞむ一方で、学内外を問わず、これまで出会った人たちが新しく出会った人たちと、さまざまなかたちで交流を行い、関係を育んできました。

時には、勉強だけではなく、目標や将来など、さまざまなことで岐路に立たされた気分になり、思い悩んで、自分自身が嫌になることもありました。そんなときでも、私の周りの人たちは手を差し伸べてくれました。厳しい言葉をいただくこともありましたが、今では、その言葉も私の人生の財産です。

こうして充実した学生生活を送り、自

分自身が強くしなやかに成長できた実感できるのも、これまで出会った方々と2年間ずつと支え続けてくれた両親のおかげです。学生生活を終え、社会人としての「はじまり」を迎えたい今、支えてくれた皆さんに伝えたい言葉があります。

「ありがとう。」



まちづくり研究の実習活動で高知県を探訪



パラオでのボランティア活動

## 大切な4年間



キャリアデザイン学部  
鳴海 友理

高校2年生の夏、オープンキャンパスに来てワクワクしたときの気持ちは、今でも忘れることができません。大学生活のことを楽しそうに話す学生スタッフを見て、「絶対にこの大学・学部に入学したい！」と、絶対に入学期から私は法政大学のファンになりました。

そんな私は入学後、迷うことなくオープンキャンパスのスタッフになり、4年間活動を続けました。活動する中では、大変な思いをして、つらかったこともあ

りましたが「辞めたい」と思ったことはありません。きっと、同じスタッフの仲間や職員の方々のサポートがあったからだと思います。

スタッフの仲間は、私にとって「東京の家族」のような存在でした。学年を問わず、来場者のために頑張ることを惜しまない仲間たちから、私は多くのことを学びました。自分の言葉で大学や学部の魅力を伝える中で、法政大学のこと、すまず大好きになりました。来場者の方の「来年、絶対に合格します！」という言葉は私にとって、宝物です。

今振り返ると、オープンキャンパスのスタッフ活動だけでなく、ゼミやサークル活動でも多くの人たちに支えられた4年

間でした。また、どんなときでも私のことを応援してくれた両親にも、とても感謝しています。ありがとうございました。春からはいよいよ社会人です。緊張や不安もありますが、同時に楽しみな気持ちもあります。大学生活での学びを糧に、周りの人への感謝を忘れず、人間として成長していきたいと思いたいと思います。



オープンキャンパスの学生スタッフ

## 法政大学4年間で 気付かされたこと



理工学部  
神谷 峻佑

1年生の頃は「高校時代のよみに、無邪気に笑ったり、けんかしたりしながらも、純粋で楽しかった日々に戻りたい」と常々思っていました。長かった受験勉強が終わって、やっと大学生活が始まったというのに、無機質な毎日を送るばかり。何かと高校時代の友人と居ることの方が多くなり、「大学のやっつらんかつまらぬえ」と愚痴をこぼしていました。しかし、つまらないと思っていた大学の仲間が、今では自分にとって欠かせない存

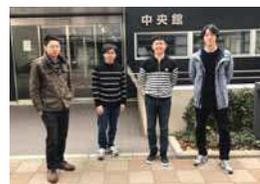
在になりました。

学年が上がるにつれ、授業やゼミなどで人と接する機会が増えました。3年生から所属した、佐藤修一教授の「宇宙計測研究室」では、仲間に支えられながら重力波関連の研究を行い、そびえ立つ壁がぶつかり続けました。そうした日々を過ごしながら、大学生活や仲間の存在、そして自分と向き合い、物事や人の本質を少し理解できるようになりました。

楽しむことで、うれしくなり、悲しいことも、つらくてもやらなくてはならない努力、大人になることの寂しさや悲しさ。それらを背負って生きている大人の格好よさ。さまざまな「喜怒哀楽」のある学生生活を送るうちに、人として生きる上で大切なことを、いくつも気付かされました。

た。

卒業シーズンには「大学での思い出は一生の宝です」など、使い古されたフレーズが使われますが、私にとっても間違いなく、一生の宝物になりました。最後に法政大学とその仲間たちへ心から本気で伝えたい。「ありがとう！」



小金井キャンパス中央館前で、学科の仲間たちと

## 娘へのエール



鳴海 昌子

卒業おめでとう。元々「人」が好きで友理が、キャリアデザイン学部に興味を持ち、オープンキャンパスに魅せられたのは、運命的でもあり当然のことでした。

4年間、スタッフとして活動する姿は、親として本当に嬉しいものでした。多くの素敵な仲間にお生まれ、2年生の夏には10人のスタッフと一緒にねぶた祭りや遊園地のは、最高の思い出です。私も後援会で、多くの方々と楽しく活動できました。親子ともども、法政でできた絆に感謝しています。これからも法政で学んだことを生かし、自分らしく進んでいけるよう応援しています。

## 卒業おめでとう



神谷 栄

寮黙で、大勢の中に入るのが苦手な息子が心配でした。最初は馴染めなかったようですが、友達もでき、家でも大学でも本当によく勉強していましたね。ゼミの仲間と何日も夜を徹して研究したり、楽しんだ遊び、すっかり立派な法政生になりました。大学生活で苦業を共にした仲間、一生のよき友となることでしょう。これからも、人との関わり合いと感謝の気持ちを大切にして、大学院でも頑張ってください。

後援会活動を通して、大勢の方と出会うことができました。私も幸せでした。あっという間の4年間。しかし親子ともども、充実した忘れ難い4年間でした。